



## 平成29年度学力調査等の結果について

学力向上担当主任 吉田 健二

平成29年度の学力調査等の結果をお知らせいたします。杉並区の「特定の課題に対する調査」は3~6年生が対象で3・6年生は国語・算数の2教科、4・5年生は国語・算数・理科の3教科で実施、都の「児童の学力向上を図るためにの調査」は5年生が対象で国語・社会・算数・理科の4教科で実施、国の「全国学力・学習状況調査」は6年生が対象で国語・算数の2教科で実施されました。また、それぞれの調査において、「学習・生活についてのアンケート」も実施されました。

### 1 杉並区「特定の課題に対する調査」結果(正答率)

杉並区の「特定の課題に対する調査」は、杉並の子どもの学力の実態をもとに、区全体で定着が不十分な傾向がある領域に重点を置いて行った学習状況調査です。そのため、国・都の調査と比較してかなり難易度が高く、正答率が低くなっています。

	国語		算数		理科	
	本校	杉並区	本校	杉並区	本校	杉並区
3年	55.6	47.6	64.5	62.2		
4年	59.9	59.4	66.9	65.0	▼66.6	68.2
5年	57.3	54.4	66.0	63.0	65.3	61.4
6年	67.4	65.3	65.2	62.1		

### 2 東京都「児童の学力向上を図るためにの調査」結果(正答率)

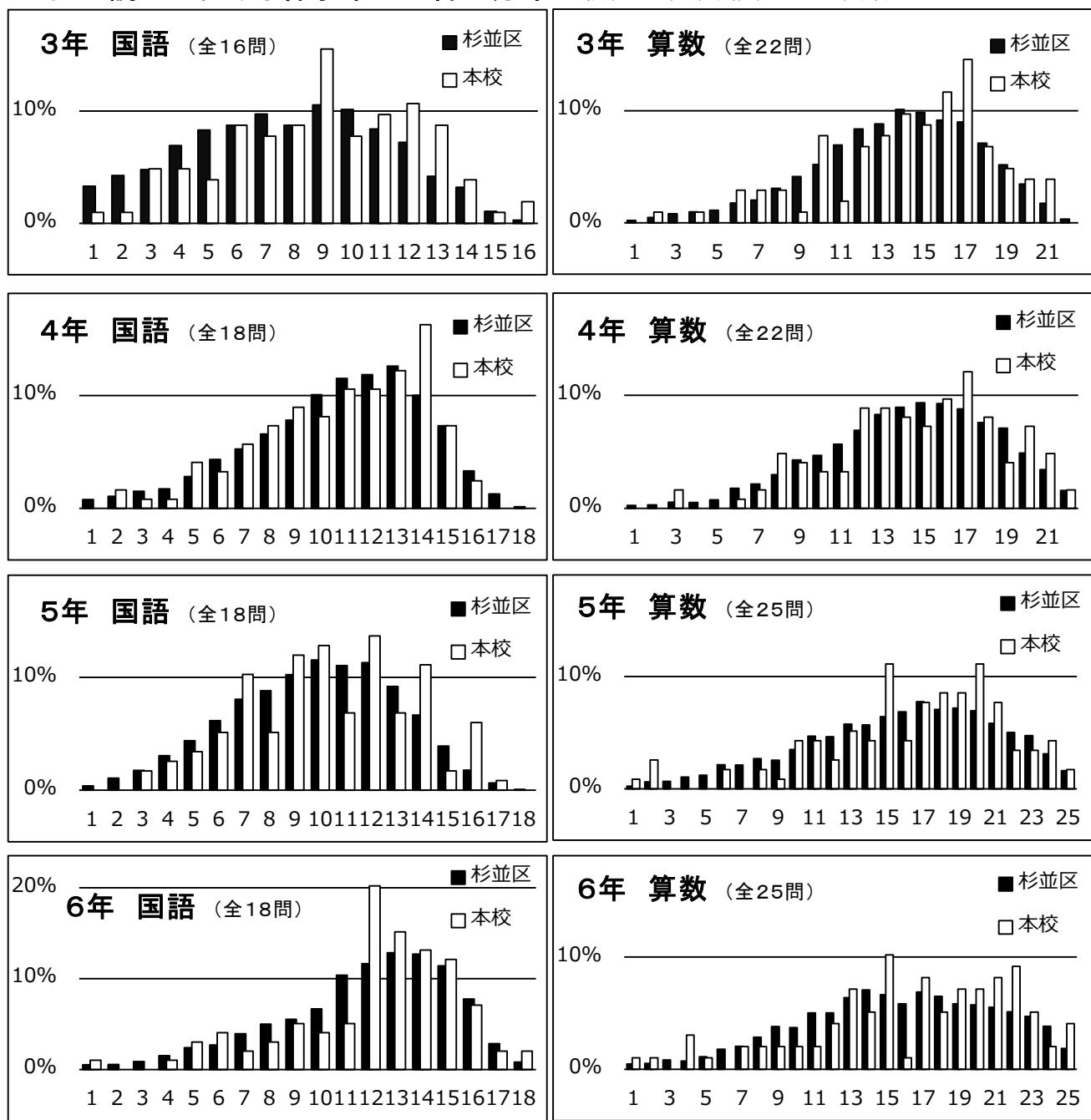
	国語		社会		算数		理科	
	本校	東京都	本校	東京都	本校	東京都	本校	東京都
5年	75.9	68.1	76.4	71.8	68.8	60.7	76.2	72.2

### 3 国「全国学力・学習状況調査」結果(正答率)

	国語A(主に知識)			国語B(主に活用)			算数A(主に知識)			算数B(主に活用)		
	本校	都	国									
6年	80.0	76.0	74.8	67.0	60.0	57.5	85.0	81.0	78.6	56.0	49.0	45.9

国や都・区の調査結果を見ると、4年の理科を除く全ての学年・教科で平均を上回っています。本校の児童の学力は中間的な位置より若干上位にあるのではないかと推測されます。

#### 4 区の調査における各学年の正答の分布 (横軸: 正答数、縦軸: 児童数割合)



**【国語】**4年生の活用問題で区の平均を若干下回りましたが、3・5・6年生では基礎問題・活用問題共に区の平均を上回りました。観点別では、4・5・6年生で「話す・聞く」領域の問題を苦手としている児童が多いことがわかりました。授業では、スピーチや話合い活動などの学習場面で、話の要点を聞き取り適切にメモをとることや、目的や意図に応じて適切な言葉遣いで話すことの指導にこれまで以上に取り組んでいきます。

**【算数】**全ての学年で、基礎問題・活用問題共に区の平均を上回りました。しかし、中学年では領域としての「量と測定」(長さ、重さ、体積など)の問題、高学年では観点としての「思考・表現」分野の問題に若干の課題があることがわかりました。授業では、既習の内容を想起して、新たに学習する量の比較や測定に活用することができるような系統性を意識した指導や(中学年)、図を用いる、言葉で説明する、式で表すなど、考えたことを表現し、学習集団の中で交流させることで、思考力を高める指導(高学年)に取り組んでいきます。

## 5 学年ごとの課題と改善策

### (1) 国語

	課題	改善策
3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>聞き取りに課題がある児童がやや多い。</li> <li>考えを言葉で表現する力が不十分である。</li> <li>「間違いなどに気付き、正すこと」や「良いところを見つけて感想を伝える」は無答の割合が多く、課題が見られた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>話すことや聞くことの活動を通して、大事なことを聞き取ることや筋道を立てて話すことを習慣付けていく。</li> <li>読み取ったことや考えたことを書く活動を多く取り入れる。</li> </ul>
4年	<ul style="list-style-type: none"> <li>適切な接続詞を選び内容ごとに段落を分けて文章を書くことや、説明文・物語文における、「文章の細かい点に注意して読んで、自分の考えをもつ」ことに課題が見られた。</li> <li>既習の漢字を日常的に使うことができない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章を書くときは、接続詞を適切に使うとともに、内容が変わるとときは段落を変えて書くことができるよう指導する。</li> <li>作文、日記などの指導では、漢字を使うべきところにサイドラインを入れて書くようにさせる。</li> </ul>
5年	<ul style="list-style-type: none"> <li>話を聞いたり、読んだりした内容について、話の中心になる部分をとらえる力に課題が見られた。</li> <li>書くことについて苦手意識が強く、文章を書く楽しみを感じることができていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章を読ませる時は、読みの視点を与えてサイドラインを引かせる等して、児童が目的をもって読み取ることができるようする。</li> <li>書いた文章を読み合い、交流したり、助言し合ったりする学習活動を取り入れる。</li> </ul>
6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>物語文を読んで人物の心情や相互関係、情景描写を捉える問題に課題が見られた。</li> <li>読んだり、聞いたりした内容について、自分の考えを明確にしたり、まとめたりすることに課題が見られた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>作品に合わせて、サイドライン・書き込み・吹き出し・内言などの方法を活用して指導し、自分の読みを深めていくようする。</li> <li>モデル文を示すことで、要旨のまとめ方や自分の考えの書き表し方を指導する。</li> </ul>

### (2) 算数

	課題	改善策
3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>特定の内容でつまずきがある児童は、既習事項の定着に課題がある。</li> <li>数学的な思考力・表現力を問う問題にやや課題がある。</li> <li>図形の学習内容が定着していない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>デジタル教材の活用やプリント学習により既習事項の復習の時間を設ける。</li> <li>問題を解くときに、どのように考えたかを話し合い、協力して問題解決を図るようする。</li> <li>図形学習では教具を十分に活用する。</li> </ul>
4年	<ul style="list-style-type: none"> <li>既習事項が定着していないことで、新しい内容の理解が不十分となる児童がやや多い。</li> <li>計算の仕組みを活用して数の問題を考えて解く問題をはじめ、4領域の全てで、基礎を活用して問題を解く力に課題が見られた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>既習事項を授業の導入で触れたり、板書したりすることで、児童への定着を図る。</li> <li>図や具体物を使って、既習事項をもとに多様に考え、様々な解決方法の中から一般化した式を考えることができるよう指導する。</li> </ul>
5年	<ul style="list-style-type: none"> <li>小数の筆算の仕組みを説明する問題や、2つの量の関係を数直線を使って求める問題など、思考力を問う問題で課題が見られた。</li> <li>図形の構成要素や辺や面の位置関係に着目して、正しく見分けることが苦手である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分が考えた解決方法だけでなく、友達の解決方法を聞くことで、様々な解決方法や表現方法があることに気付かせる。</li> <li>図形は具体物を用いて理解できるようにする。学習系統性を大切にした指導をする。</li> </ul>
6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>学び残しのある児童は、小数や分数の計算など既習事項の基礎基本の習得が不十分である。</li> <li>既習の知識や技能を生かして活用問題を解く力に課題が見られた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>数量の関係を適切に捉えやすくするために、既習である数直線、線分図、図などに表す活動を取り入れて指導する。</li> <li>個人やグループなど学習形態を工夫し、様々な解決方法があることに気付かせる。</li> </ul>

## 6 学習・生活についてのアンケートより

学習・生活についてのアンケート調査は、自己意識や生活実態、学習状況の諸側面を児童が自己評価できるように設計されています。

**認知能力と非認知能力** ※本欄は『学力の経済学』中村牧子著、2015年)を参考に作成しました。

学力調査で計測される能力を一般に「認知能力」と呼びます。一方で、「忍耐力がある」とか「やり抜く力がある」とか、「意欲的である」といった、人間の気質や性格的な特徴のようなものは「非認知能力」と呼ばれています。非認知能力は、将来の成功に大きく影響するとともに、認知能力の形成にも一役買っていることが最近注目されています。非認知能力といつても、いろいろなものがありますが、「自制心」や「やり抜く力」を早期に獲得することが特に重要とされています。

### 「自制心・忍耐力」に関する質問項目(肯定的な回答をした児童の割合)

	学校で自分がまかされたことは、責任をもって取り組むようにしている。(1-7)		ふだんからわすれ物をしないようにしている。(1-12)		学校で出された宿題はきちんとやるようにしている。(2-17)	
	本校	杉並区	本校	杉並区	本校	杉並区
3年	84.6	83.8	85.6	82.1	96.2	91.1
4年	▼87.9	88.5	89.5	84.8	92.7	91.9
5年	94.9	92.5	▼83.8	85.6	94.0	92.8
6年	96.0	93.6	91.9	87.8	93.9	93.2

### 「やり抜く力」に関する質問項目(肯定的な回答をした児童の割合)

	ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある。(2-6)		自分は、最後までやりぬくなど根気強いほうだと思う。(2-13)		自分は努力すれば、たいでいのことができるようになると思う。(2-24)	
	本校	杉並区	本校	杉並区	本校	杉並区
3年	88.5	88.0	75.0	71.8	84.6	80.2
4年	95.2	91.4	▼65.3	67.8	▼82.3	82.8
5年	93.2	92.6	69.2	67.8	82.9	80.9
6年	▼89.9	91.9	66.7	66.4	83.8	79.2

### 「意欲・目標への情熱」に関する質問項目(肯定的な回答をした児童の割合)

	難しいことに挑戦することは、楽しいことだと思う。(2-10)		自分は、新しいことが分かると、次の内容をもっと学ぼうとする。(2-18)		興味をもったことは、自分から進んで学んでいる。(3-7)	
	本校	杉並区	本校	杉並区	本校	杉並区
3年	79.8	78.2	77.9	75.9	83.7	80.7
4年	▼75.0	78.6	82.3	76.2	▼81.5	83.8
5年	▼78.6	79.3	80.3	74.0	90.6	82.8
6年	81.8	77.9	76.8	74.7	87.9	83.2

非認知能力は学力だけに結び付くわけではありません。生涯にわたって自分を成長させたり、豊かな人間関係を構築したり、人生のあらゆる営みの支えとなります。学校とは、ただ単に勉強をする場ではなく、先生や友達から多くのことを学び、「非認知能力」についても培う場所でもあるという認識のもと、全ての教育活動を通してこれらの力を高められるように取組を行っていきます。